自然素材による生活道具
「日本のいろ 2013」展

Japanese Craft Made of Natural Materials
'Japanin Väri 2013' Exhibition

代表 井生文隆　＊Fumitaka Io
中谷昭子　＊＊Akiko Nakatani
平川和明　＊＊＊Kazuaki Hirakawa

Abstract

Subject of the research study is a cultural exchange through a exhibition of Japanese craft made of natural materials in Helsinki Finland. The meaning of the exhibition in Helsinki is to reinforce the our future projects receiving suggestions from Finnish idea of attractive nature oriented design mind. We, together with member designers of "Japanese Color" project, to introduce Japanese contemporary craft and design.

1. はじめに

経済と先進技術のめまぐるしい発展により、社会では人々の暮らしが広がり、様々なイノベーションが提供されている。デザインは社会において、また人々の暮らしにおいて造形文化の中で重要なもののひとつであるため、デザインの役割がどうあるべきかが問われている。スクラップアンドビルドとよばれる大量生産・大量消費から抜け出し、人とモノと環境の関係を調和させることで、地球の資源を守り、価値の持続ならびに向上についての具現化を構築しなければならない。

タイムレスデザインとよばれるモノづくりがある。流行にとらわれることなく、いつの時代においても新鮮な魅力を持つデザインである。使うほどモノへの思いが深まり、心に馴染み、麗しく、愛おしく、永く愛用され、環境に対する優しさへとつながる。本当にデザインが人々の暮らしに溶け込み、価値が時間に対して超越し、自然の恵み、時の恵みを表現し、時代を超えて色褪せずに人々を魅了し、愛されるための魅力の本質を探ることは、とても重要なデザインの使命である。

自然と人間のニーズを真摯かつ誠実に満たした社会を実現するために、自然素材を使用したモノが豊かにある生活文化をデザインを通して具体化することを真剣に取組んでいかねばならない。

2. 日本のいろ展

研究成果の発表を、フィンランドのヘルシンキで開催された北欧最大規模のデザインフェア「ハビターレ2013」において展示会として発信する。これまでに国内外で開催を継続して、今回で４回目となる。

1）2010年 日本のいろ展Ⅰ アヴァイン・ギャラリー / フィンランド ヘルシンキ
2）2011年 日本のいろ展Ⅱ Gallery B / 神奈川県・鎌倉
3）2012年 日本のいろ展Ⅲ 松岡山東慶寺 白蓮舎 / 神奈川県・北鎌倉
4）2013年 日本のいろ展Ⅳ Habitare / フィンランド・ヘルシンキ

また、５回目を2015年に関東地区での開催を計画している。

＊ 山口県立大学大学院国際文化学研究科教授
Professor, Graduate School of Intercultural Studies, Yamaguchi Prefectural University
＊＊ 山口県立大学大学院国際文化学研究科2008年中退、フィンランド国立ラップランド大学アート・アンド・デザインMAコース2011年修了、九州造形短期大学造形芸術学科助教
2008-11 Art and Design, MA course, University Of Lapland, Finland,Assistant Professor of Kyushu Zokei Art College
＊＊＊ 山口県立大学大学院国際文化学研究科2006年修了、LB Furniture works 代表
2002-06 Graduate School of Intercultural Studies, Yamaguchi Prefectural University, LB Furniture works

3. 展示会の概要

日本のいろ展の会場において、自然素材によるクラフトやデザイン作品を展示することで、豊かな自然を背景としたタイムレスな魅力を具現化しているフィンランドと技術・デザイン・文化などの交流を追究する。「日本のいろ」である技・素材・デザインについてフィンランドと日本の文化の相違を比較検証することで、日本の文化継承をふまえた「いろ」を再認識する。そして自然の美、伝統の技、素材の可能性を大切にして、生活を豊かにする「モノ」を作り続け、将来性のある「日本のいろ」を探り続けることを目標としている。日本の伝統と文化を継承した形により、デザインを通して幅広く生活用品を提案し、サスティナブルな視点はもとより、日本文化の根底に据えた形の重要性を感じ、新しい創造の追究を国際交流により達成することをねらいとする。

これまで「地球環境のための素材活用」をテーマとしてデザイン活動に取り組んできた。本展示会も、環境保全、日本の自然資源の活用、地域活性化などをテーマとした研究成果を発表するものである。地球の未来と密接な関わりを持つと考える「自然素材」について、デザインを通して具現化することで、地域の産業創出・振興、地球環境の持続に貢献することを訴求している。

4. 展示会趣旨（2010 年「日本のいろ」展案内状より）

木に対する感性が似ていると言われている、フィンランドと日本。フィンランドでは、原産地を代表する白樺の木の良さが活かされています。日本にも、昔から「木の文化」があり、日本人は暮らしの中に賢く森林の恵みを取り込む事で、何世代にもわたって「美しい森林」を育んできました。しかし、日本の森林の現状は、林業の採算性や、山村の過疎化などにより、「植える・育てる・収穫する」という環境循環が崩れている状況にあります。

我々は、この展示会でフィンランドと日本文化の相違を検証すると共に、日本を代表する竹材や、漆・自然油塗装などを利用し、あらためて日本文化の継承を踏まえた ′いろ ′を再認識し追求していきたいと思います。

自然の美、伝統の技、素材の可能性を大切にし、生活を豊かにするものを作り続け、将来性のある日本の ′いろ ′を探り続けていければ幸いです。

′ Japanese skill and design ′

Sensitivity to a wood is said to be similar both in Finnish and Japanese mind. The goodness of white birch is being utilized as Finnish origin.

Japan has a long history of the wood culture.
Thus Japanese assimilated a blessing of wood into daily life, they have been obliged to take a good care of the beautiful forests from generation to generation.

But in the reality of the forests, we are loosing environmental circle as "planting seeds, taking cares and harvests", owing to depopulation from the forests village and less profitability.

Through the exhibition, we verify the differences between Finnish and Japanese cultures, as well as using Japanese origin of Bamboos and Urusi the natural lacquer, in light of recognition and search of inheritage of the "Color" of Japanese culture.

As we cherish a possibility of Beauty of Nature, Skill of Tradition, and Possibility of Raw Materials. We keep on creating for the richer life. And we are happy to keep on searching the potential "Japanese color".

5. 参加アーティスト / 作品

1）山口県立大学グループ

(1) 井生文隆：山口県立大学教授
kahvi table（コーヒーテーブル）
竹積層成形合板、サクラ、クルミ、櫨蝋仕上げ

(2) 中谷昭子：九州造形短期大学助教
日と月（漢字が有する機能をウッドアートにメタモルフォーゼさせた作品）
突き板合板（ブラックウォルナット、チェリー、メープル等）、アクリル、鉄媒染仕上げ

(3) 平川和明：LB ファニチャー代表
きのこスツール
山桜、絣（座面）、オイル仕上げ

(4) 学生：山口県立大学国際文化学部文化創造学科学生 11 名
　自然素材を使用した生活雑貨作品

2) 武蔵野美術大学グループ
(1) 十時啓悦：武蔵野美術大学教授
　銀箔文酒つぎ（サケボトル）
　桂、漆、銀泊

(2) 林 宏：日本文化財漆協会常任理事 / 漆作家
　飾り棚（現代の生活空間に神聖な場所として機能）
　楢材積層による曲げ木、栗材、轆轤加工、漆、顔料

(3) 太田邦宏：orihinuk 代表 / デザイナー
　漆箸 / 縞黒檀、拭き漆
　竹利休箸 / 日本竹、無塗装

(4) 中川岳二：take-g toy’s 代表 / ウッドアーティストサイコロン / 野菜の形をモチーフにした頭にサイコロのような四角い立体を乗せたキャラクター
　木の色味を生かす寄木細工、木象嵌による立体造形
　ケヤキ、ホワイトアッシュ、ウォールナット、チーク

6. 展覧会期間 / 場所

展示会名：「日本のいろ 2013」展
　　Japanin väri exhibition
場所　　：デザインフェア・ハビターレ 2013
　　Habitare 2013（Helsinki Finland）
期間　　：2013 年 9 月 18 日（水）- 9 月 22 日（日）/ 5 日間

7. 主催

日本のいろ展 2013 実行委員会（委員長：井生文隆）

8. 助成

ユニオン造形文化財団（国際交流）

9. 後援

在フィンランド共和国日本大使館、にっぽん ing 協会

10. 謝辞

研究助成をいただいた、ユニオン造形文化財団、共同研究していただいた武蔵野美術大学十時啓悦教授と参加メンバー、展示会をコーディネートとしていただいたソニー・ナカイ氏、その他多くの方々には重要な示唆や協力をいただきました。
記して感謝を致します。

kahvi table-s, kahvi table-c

補強のために入れた蝶々とよばれる部材が、テーブルのアイコンになっているコーヒーテーブル。
日本の木工文化・伝統技術と素材を組み合わせにより生まれる新たな魅力を具現化した。
材料：竹積層成形合板、サクラ、クルミ、櫨蝋仕上げ（山口県産））
デザイン : 井生 / 制作：平川和明

aurinko+kuu

日と月。

漢字が有する機能をウッドアートにメタモルフォーゼさせる。

材料：突き板合板（ブラックウォルナット、チェリー、メープル等）、アクリル、鉄媒染仕上げ

デザイン・制作：中谷昭子

kinoko stool
絣の着物を座面にリユースしたスツール。
使い込むことで心に馴染み愛着がわきロングライフに使えるスツールを具現化。
材料：山桜、カスリ（座面）、オイル仕上げ
デザイン・制作：平川和明

展示ブース

山口県立大学生作品 / デザイン：小野飛鳥、小野彩菜、越口木肖、田尾円香、中野優、平田七彩、福谷直美、松尾愛里、神﨑千春、松屋麻奈美、磯部鈴

DM & brochure / デザイン：Studio Kulta